

松本善明さんから高橋ちづ子さんに

住民の痛み 願いを国会に届ける—決意に燃え

東北の議席を必ず活動はじめる

日本共産党の市田忠義書記局長は国会内で記者会見し、次期の総選挙にのぞむ衆院比例代表候補三十氏の名簿（第一次分）を発表しました。市田氏は「二十一世紀の国政を担うメンバーにふさわしく、経験豊富な現職議員と同時に、全体として思いきった若返りをはかることにした」と特徴を説明しました。これまで東北ブロックから選出されていた松本善明議員は勇退することになり、現職の青森県議の高橋ちづ子さんが候補者となりました。高橋ちづ子さんは、発表後ただちに日本共産党国会議員団の全国コメ調査団の一員として活動に参加。宮城県の日本共産党大演説会（二十三日）では、松本善明衆院議員の議席を引き継ぎ奮闘する決意を三千五百人の聴衆の前で訴えるなど、東北での議席を必ず守る活動をはじめました。

わたしの決意と抱負

高橋 ちづ子

私はこのたび、松本善明さんの議席をひきつぐために、国政に挑戦することになりました。松本善明さんは、十年間一人も国会議員をもつことができなかった東北の人々に大きな励ましを与え、私自身の候補者活動や議員活動でも本当に助けていただきました。

増えています。住民の顔が良く見える、小さい町や村での行政を切り捨てようとする押し付けの市町村合併も絶対に許せません。そして今、イラクへの軍事攻撃を許さない「平和と憲法を守れ」という声が地球的規模で広がっています。地方でも日本共産党の躍進が絶対に必要です。東北の皆さんと力を合わせ、全力で頑張ります。



【高橋ちづ子さん経歴】

1959年秋田県能代市生まれ。秋田県小坂町立小坂小学校、小坂中学校、秋田県立大館桂高校卒業。弘前大学人文学部卒業。1982年4月から1989年3月まで、青森市の私立東奥女子高校の英語教師。教職員組合の役員や、民青同盟青森県委員会副委員長としても活躍。1983年11月日本共産党入党。1999年青森県議会議員初当選、総務企画常任委員。趣味は、イラストを描くこと、軟式テニス、卓球、ソフトボール。家族は夫と一男。

若々しい力で

日本共産党の躍進を



すでにご存知の方も多いと思いますが、私は次の総選挙に立候補いたしません。これまでご支持・ご支援をいただいた黨員、後援会員、支持者のみなさんに心からの感謝を申し上げます。

前々から考えていたことで、党も世代交代し、若々しい力でさらに大きく躍進しなければならぬ時期です。

私の後継ぎは前々回の総選挙で比例候補としてともにたたかい、私の東北での初当選に大きな役割を果たしていた高橋ちづ子さんです。

高橋さんは四三歳でいま青

森県議会議員。私と一緒に活動した経験からみて、充分国会議員として大活躍を期待できる人です。

私も高橋さんの当選のために、自分の選挙以上に可能な限りの力をつくす決意ですが、これはなかなかの大事業です。

しかし、比例選挙の候補者は「日本共産党」です。なによりも、一斉地方選挙での党の大躍進が決定的な力になります。

一斉地方選挙と総選挙での日本共産党の躍進は、世界の平和にも皆さんの生活にも決定的な影響を及ぼします。

皆さんのいっそうのご支援を心からお願いしてご挨拶と致します。

二〇〇三年二月 衆議院議員 松本善明

「東北の心を国政に」 大きな足跡を残す松本善明さん

選挙法が改悪され、衆院東北ブロック候補者として決定された4日後に東北での活動が開始されました（94年3月）。

それまで10年間、国会議員がいなかった東北で山積する要求解決に奮闘。「水田を冠水から守れ」と福島県小高町で20億円の前算化を実現（95年度）。

宮城県の増田川、五間堀川流域を激甚災害対策特別緊急事業（110億円）に指定（94年2月）。95年には五間堀川と阿武隈川を新たに結ぶ分水路を整備させるなど数多くの要求解決に力を尽くしました。

「東北の農業を守れ」この立場で、WT

〇のもとでも米の価格保障と輸入規制は可能と農水省に認めさせ、東北の農民を激励。BSE問題でも、全会一致議員立法として実現させました。

地方政治の分野でも、5人の福島県議団実現をはじめ地方議員の拡充にも我が事として奮闘。昨年の湯沢市、霊山町、今年2月に陸前高田市と3人の共産党首長の誕生など、東北の地方政治にあたらしい流れをつくる上でも先頭に立ち、遅れた東北といわれがちな風土の中で、道を切り開いてきた実績は重いものです。

「東北の党の議席必ず守る」

—日本共産党大演説会、宮城県で
高橋ちづ子さんが訴え—



さっそく東北駆けめぐり 福島、秋田で街頭から訴え



2月23日 JR秋田駅前街頭演説



2月18日 JR福島駅前街頭演説

ともに力をあわせ、いっせい地方選・総選挙の勝利を



2月18日 菅原のりかつ岩手県知事候補と握手



2月18日 日本共産党山形県委員会であいさつ



2月21日 日本共産党青森県委員会主催の集会であいさつ



2月18日 日本共産党宮城県委員会であいさつ

日本共産党国会議員団 全国コメ調査はじまる

世界貿易機関（WTO）非公式閣僚会合（十四～十六日・東京）が開かれたのを受け、日本共産党国会議員団米問題全国調査団（責任者・中林よし子衆院議員）は十七日、米どころの宮城県に入り、農協幹部や県知事、みやぎ生協の関係者と意見交換しました。松本善明衆院議員、池田幹幸参院議員、高橋ちづ子衆院比例候補（青森県議）、中林よし子議員秘書らが参加しました。

WTO交渉で 農協幹部らと懇談

松本議員らは、WTOのハービンソン農業交渉特別会合議長が示した「大枠一次案」について、関税が現在九十%を超える農産

物的な運動を起していくことを、心から呼びかけました。調査団に対して出された主な意見を紹介します。



浅野史郎宮城県知事と懇談

●**栗つこ農協（築館町）の菅原章夫組合長**—45%削減では、日本の米と農業は大変なことになる。農水省は自給率を5%あげるといっているが、どうなるのか。超党派で取り組んでほしい。

●**浅野史郎宮城県知事**—県としては、これから具体的に、といったも大臣にがんばってもらおうしかない。（秋田では、国の稲作経営安定制度に県が上乗せして価格保障を行っている）宮城では勉強させていただきます。

●**みやぎ生協の斎藤清治生鮮部長**—地産地消で安心・安全を消費者に届けている。デフレの中で消費者は、より安いものに飛びつくが、いま（議員が）話されたようなことが知らされていない。物が豊富なのに危機感が少ない。もっと知らせて国民的な運動が必要だ。



阿邊英明宮城県農協中央会常務と懇談

●**宮城県農協中央会の阿邊英明常務**—米は、農業の土台。ひとつは経済的な安定、そしてもう一つは精神的な支え。米がだめになると、畜産・園芸も崩れ、地域の経済も破壊される。

●**正直者がばかを見た**。官僚の一人でも、うちの町にきて、一年でも百姓をやってほしい。